

歴史×エンターテインメント

門司港・関門海峡の魅力を世界へ！

僧清虚



フランス水兵慰霊碑



世界平和パゴダ



三宜楼



藤原義江



写真提供：藤原義江記念館

《主なプログラム（予定）》

特別企画：三宜楼 2代目当主 三宅為次郎による、芸者小そめさん追悼の俳句に作曲

特別展示：「馬関戦争図（藤島常興 筆）」6メートル大型幕（関門エンターテインメント 所有）

対談講演：澄允（作家）、上野真弓（三宜楼運営クラブ）、牟田裕（関門エンターテインメント）、ほか

コンサート：荒田砂代子 Soprano・牟田裕 Singer・吉松理恵 Piano

《主な曲目予定》 関門海峡のアヴェマリア（作曲：牟田裕）、オソレミオ（イタリア民謡）、など



牟田裕 Singer



荒田砂代子 Soprano



吉松理恵 Piano

2023.10.15（日）開場 13時半 開演 14時

三宜楼 2F 大広間（福岡県北九州市門司区清滝 3-6-8 / TEL.093-321-2653）

※JR 門司港駅から徒歩6分。駐車場は周辺のコインパーキングなどをご利用ください。

前売券：1000円（当日券 1500円）

前売券お取り扱い所：三宜楼、下関市生涯学習プラザ 後援：北九州市、北九州市教育委員会

TEL. 関門エンターテインメント TEL.080-1740-9243

歴史×エンターテイメント について

この度、初めての試みとして、関門海峡の歴史と音楽エンターテイメントが融合した、関門エンターテイメントコンサートを開催しました。先日7月23日に長府・蜷遊苑にて下関公演が行われ、長府藩主の笛とのコラボレーションも行い、好評の声を多数いただきました。この度の北九州公演では、門司港の数々の歴史の中から、「僧清虚」「世界平和パゴダ」「三宜楼」「フランス水兵慰霊碑」「藤原義江」などのお話に沿い、テーマごとに相応しい歌曲を演奏。より深く想像力を高め、何かを感じていただけるのではないかと思います。また、特別企画として、三宜楼2代目当主 三宅為次郎氏による、昭和15年に亡くなられた芸者小そめさん追悼の俳句に、新たにメロディーを付けた歌曲を制作し、お披露目いたします。門司港の料亭・三宜楼の繁栄の陰にあった人々の心の声に耳を傾け、曲に乗せて歌います。門司港・三宜楼からのメッセージを感じていただければ幸いです。

〔7月23日に開催された 下関公演の様子〕

〔三宜楼2代目当主 三宅為次郎氏による俳句の数々〕



世界に誇る素晴らしい関門地域の隠れた歴史資源を発掘し、音楽エンターテイメントにより光を当て、発信・ご紹介いたします。皆様、新しい感動の発見と楽しみに、是非お越しく下さい。

Kanmon Entertainment/関門エンターテイメント活動趣旨

私たちが生まれ育った関門海峡は、命の海です。関門エンターテイメントは、関門地域の歴史文化や地域資源の魅力を活かし、「平和」「絆」「慰霊と祈り」「自然との共生」「感謝」「思いやり」のメッセージを、音楽・歌・郷土劇などを中心とした無形の当地エンターテイメントを通じ、平和メッセージや先人の慰霊、歴史発信およびその価値を高め、郷土愛を育み、感動の心で繋がる人と人との絆を深め、地域の未来に繋ぐための活動です。郷土史家や地域住民とも連携しながら地域の課題解決にも取り組み、参加する全ての人々が、生命への深い感謝と優しさに触れることが出来るような活動を目指しています。将来的には、関門海峡の歴史を世界に発信できる芸術文化的基盤を新しく構築するためのエンターテイメント活動です。

<https://yuumuta.jimdofree.com/kanmon-entertainment/>

コンサート協賛募集 <<お振込み先>> 西日本シティ銀行門司支店 口座番号 3076912

関門エンターテイメント 代表 牟田裕 カンモンエンターテイメント ダイヒョウ ムタユウ



〈「日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」〉

関門海峡は、古来より陸上・海上交通の要衝であり、日本の歴史上重要な転換点の舞台となってきました。平安時代末の源平の戦いや、武蔵・小次郎の巖流島の決闘などは特に有名な物語として今に伝わっています。幕末の下関戦争を契機とした下関・門司両港の開港から経済的な発展、関門鉄道トンネルの開通、そして現在の街並みが作られる約160年間のストーリーが「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」として文化庁から日本遺産の認定を受けています。この日本遺産を活用する関門海峡日本遺産協議会は、関門海峡の歴史とこの素晴らしいロケーションを活かした地域の魅力を積極的に発信しています。

〈門司港のストーリー〉

江戸時代まで門司港地区は塩田と半農半漁の静かな村でしたが、1889(明治22)年の特別輸出港の指定、九州鉄道の開通などをきっかけに、陸上と海上運輸の集散地として急速に発展していきました。

日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」は、幕末から昭和にかけて国際貿易港として発展し、現在は映画のワンシーンに紛れ込んだようなノスタルジックな街並みが残された関門海峡沿岸のストーリーです。三宜楼も登場するこの物語を、兩岸をめぐりながら楽しんでみませんか？

日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」の詳細はこちら→

